

授業情報／Course information

● 授業基本情報

科目名／Course title	開発途上国の環境と開発：事例研究／The Environment and Development in Developing Countries : Case study		
担当教員／Instructor	宮田 春夫		
対象学年／Eligible grade	1 , 2 , 3 , 4 , 5 , 6	開講番号／Registration Code	180G3953
講義室／Classroom	未定	開講学期／Semester	2018年度／Academic Year 集中／INTENSIVE
曜日・時限／Class period	他/Others	単位数／Credits	2
授業形態／Type of class	講義	科目区分／Category	新潟大学個性化科目 自由主題
副専攻／Minor		定員／Capacity	10
分野／Academic Field	75：新潟大学個性化科目	水準／Academic Standard	05：全学学生受入可・発展内容科目大学院接続水準
抽選方式	手動		

● 授業概要情報

更新日／Date of renewal	2017/12/30
対象学部等／Eligible Faculty	全学部（原則として3年次以上。開発途上国との協力等について実績・経験のある学生は1-2年生でも可。）
聴講指定等／Designated Students	開発途上国の環境と開発の問題または環境問題もしくは開発問題について基礎知識または経験のある3-4年生が、現地訪問により、開発途上国の環境と開発の問題または環境問題もしくは開発問題について、一般的な理論に上乗せして具体論を論じることができるようになることを目標とする科目です。（「百聞プラス一見」の力をつけること。）最低限、「開発途上国」に関わる1科目以上を75点以上で習得していること(当該学期中の見込みを含みます。)が必要です。1か月以上開発途上国に滞在して協力活動に従事した経験がある学生、開発途上国で半年以上暮らした経験のある学生、及び、開発途上国外で開発途上国の人たちの生活の向上等の支援に関わる活動を2年以上行った経験のある学生については、1-2年生でもあっても参加を認めることがあります。そのほか、通訳はつかないので、英語力等も必要です。(履修要件を厳格に適用します。開発途上国に関心があっても以上に当てはまらない学生は、そのような人を対象に旅行会社等が実施しているスタディーツアーに参加して下さい。)
科目の概要／Course Outline	一つまたは少数の開発途上国または地域を選択し、その国の環境問題、環境政策及び開発諸課題について事前に調査し、その上で、現地の問題の現場、政府機関、国際機関及び民間団体等を訪問して、実情を調査し、帰国後、それをそれぞれの学生が報告書にとりまとめます。 今年も訪問先は、主にカンボジアとラオスとし、協力の実際や課題について学ぶため、日本国際ボランティアセンターのカンボジアとラオスの農村開発や環境教育の支援、JICAカンボジア事務所、ラオスの青年海外協力隊員、上智大学アジア人材養成研究センター、開発課題の背景にある政治的・社会的低開発等を学ぶため、ポルポト派の政治犯収容(拷問・虐殺)施設、大量虐殺現場、カンボジア特別法廷等を訪問する予定です。市場等、人々の日常生活を見ることが及び歴史を学ぶこともします。2017年とほぼ同様の訪問を予定しています。但し、先方の都合等により、訪問できなくなるところや、変更もあり得ます。 訪問期日は、「開発途上国の環境と開発：事例研究(マダガスカル)」を実施しない場合は、9月の20日間程度、それを実施する場合は2月下旬から3月の20日間程度の予定です。過去のカンボジア・ラオス訪問日程は次の通りでした。訪問できる曜日が限られる訪問先が多いので、概ね、木曜日に出発して翌々週の火曜日に新潟帰着になります。今年度は、9月6日(木)発25日(火)帰着または2月21日(木)発3月16日(火)帰着(若しくはその1週間後に実施)の可能性が高いです。航空便の事情により1-2日ずれる可能性もあります。 2011年：9月4日(日)朝成田発・ブノンペン着、18日(日)朝成田帰着(タイ航空、http://www.isc.niigata-u.ac.jp/~miyatah/nu/2011/e-d-real/e-d_real_top.htm) 2013年：9月6日(金)新潟発・ホーチミン着、24日(火)新潟夜着(大韓航空、http://www.isc.niigata-u.ac.jp/~miyatah/nu/2014/e-d_real/2013results_outline.pdf) 2014年：9月4日(木)新潟発・ホーチミン着、23日(火)新潟夜着(大韓航空、http://www.isc.niigata-u.ac.jp/~miyatah/nu/2015/140G395_syllabus+schedule+costs.pdf) 2016年：9月1日(木)新潟発・ホーチミン着、9月20日(火)ホーチミン発・新潟着(ベトナム航空、http://www.isc.niigata-u.ac.jp/~miyatah/nu/2017)/nittei2016kekka_w_photo2017-01-25minimum.pdf) 2017年：9月7日(木)新潟発・ホーチミン着、9月26日(火)新潟着(大韓航空、日程：http://www.isc.niigata-u.ac.jp/~miyatah/nu/2018/schedule2017-11-13smallest_file.pdf 行程地図：http://www.isc.niigata-u.ac.jp/~miyatah/nu/2018/e-d_real2017_map_with_photos.pdf) (2008-10、2012、2015年度は休講。)
科目のねらい／Course Objectives	現地訪問に必要な経費は全て学生の自己負担になります。為替レート、航空燃料サーチャージ等により変化し、食費等を含めた総額が25万円を超える可能性もあります。旅券の新規取得の有無、予防接種の有無等によっても変わります(法令による必須の予防接種はありません。他方、デング熱、ジカ熱のように流行している予防接種のない病気のため蚊よけ等の予防策が重要です。)。この授業の直前の夏季プログラムのために担当教員が極めて多忙なため、また、格安の航空券を確保するため、5月の連休過ぎに説明会を行った後、早期に(6月半ばが目安)履修者を確定し、準備する必要があります。そのため、関心のある学生は早期に教員に相談して下さい。授業として成り立つだけの4人以上の学生の履修が早期に見込めない場合は開講しません。 なお、教員の定年退職に伴い、2018年度が最後になります。
学習の到達目標／Specific Learning Objectives	開発途上国について学生に具体的に理解させ、それにより、開発途上国と先進国との関係についての課題の効果的な理解に役立てる授業です。 教養科目の具体的目標のうち次の3点に寄与する科目です。 (1)専門科目の学習により得られた専門的な知識を、より広い視野や知見の下で位置づけ、意味づける力を育成すること (2)大学院教育(または社会人)に接続する学部教育の中で、自ら学ぶ学習能力を育成すること (3)自らの心身の健康を管理し、感性和精神を高め、社会や世界に役立つことのできる経験や意欲(同情ではなくコミットメントによる協力)を育成すること(グローバル化した現実社会で積極的に行動できる力をつける。)
登録のための条件(注意)／Prerequisites	現地訪問により、開発途上国の環境と開発の問題または環境問題もしくは開発問題について、一般的な理論に上乗せして具体論を論じることができるようになることを目標とします。（「百聞プラス一見」の力をつけること。） 詳細はこの科目のウェブサイトに記載しているので、そちらを見て下さい。 1.最低限、英語により聞き取り調査を行うことができる。2.健康。3.柔軟な精神力と自制心。4.航空運賃、宿泊料及び旅行保険料並びに食事他の個人的経費約25万円(為替レート、原油価格等により変わります。)の負担。5.最低限、「開発途上国」に関わる科目を1科目以上を75点以上で習得している学生のみを対象とします(2018年度前期中の習得見込みを含みます。)。6.限られた数の学生しか参加できないこの授業の経験を他の学生と共有するため、報告会を開く予定です。義務ではありませんが、履修生は、できる限りその報告会にも参加して下さい。 他大学では、交通事故で脳内出血の緊急手術を受け、家族も駆けつけるような事件も起きています。開発・開発途上国についての基礎知識、事故や事件を防ぐ自制心、万が一の時のための旅行保険(クレジットカード付帯保険は不十分。)等を欠く学生は参加できません。
	詳細はこの科目のウェブサイトに掲載しているのでそちらを見て下さい。 1.授業で対象とする国の訪問には、一定の事故/特に、車優先社会での交通事故)や犯罪被害(ノックアウト、フ

	<p>付帯保険は十分。)寺を火く学生は参加しません。</p>
学習方法・学習上の注意 ／Study Advice	<p>詳細はこの科目のウェブサイトに掲載しているのでそちらを見て下さい。</p> <p>1.授業で対象とする国の訪問には、一定の事故(特に、車優先社会での交通事故)や犯罪被害(ひったくり、スリ、詐欺等)、病気のリスク(十分な医療が受けられる医療機関が無いことを含みます。)が伴います(但し、当然、外務省が渡航しないように勧告しているような状態の国・場所には行きません。また、大学及び担当教員は、リスク対策をとります。)。加えて、かなりの交通費・宿泊費他の経費がかかります。更に、この授業は、旅行会社に委託せずに実施するため、旅行業法の消費者保護規定の適用が無く、航空便が予定通りに飛ばない場合、宿が予約通りに取れていなかった場合等には、教員と学生が協力して対処する必要があります。</p> <p>2.本人及び保証人から、上記のようなリスクを承知の上、危険回避のためにそれぞれにおいて努力すること(リスクの理解とそれらへの対策や旅行保険をかけることを含みます。)、授業としての教員の指示に従うこと等についての誓約書を、現地調査の前に提出してもらいます。</p> <p>3.年度初頭から学生の履修届を受け付ける予定ですが、変更になる場合もあるので、教務課の公示に注意して下さい。但し、確実な準備のため、可能な限り、公示前に履修の意思を担当教員に伝えて下さい。質問等も、遠慮なく行って下さい。早くから教員との間で信頼関係を築くことは、学習効果の面でも、安全対策の面でも重要です。</p> <p>4. 5月中頃に説明会を開催の予定です。</p> <p>5. 9月に現地訪問を実施する場合の履修登録締切は6月半ば頃の予定です。(それを過ぎると安い航空券の入手が難しくなります。)3月実施の場合は11月に締切の予定です。</p> <p>6. 開発途上国と先進国との間の協力のあり方に関する授業です。農村に泊まり込んで農業体験をしたり、孤児院で子供の世話をしたりするタイプの体験型授業ではありません。</p> <p>7. 日本国際ボランティアセンターのプロジェクトの案内は、他のNGOの場合と同じく、原則として会員に対して行うものです。そのため、履修する学生は同センターの会員になる必要があり、1年分の会費(2017年末時点の学生会費1年分は5,000円)の支払いも必要です。</p>
	<p>事前調査の質及び積極性，現地調査の質及び積極性，並びに事後提出の報告書の質により評価します。事前調査，現地調査及び報告書に対する評価割合は,30：40：30を考えていますが，実情に応じて修正します。</p>
	<p>特定の教科書は使用せず，各種出版物，インターネット，関係者からの聞き取り等を活用します。</p>
	<p>授業についての詳細情報 2007年のマダガスカル訪問の写真 2014年度のシラバス、日程、経費の例(2015年からベトナムのビザ代6,500円が必要になりました。) 外務省海外安全情報</p>
成績評価の方法と基準 ／Grading Criteria	
使用テキスト ／Textbooks	
関連リンク ／URL of syllabus or other information	
	<p><主要参考図書> (開発、農村開発、開発協力関係)</p> <p>1. 佐藤寛『開発援助の社会学』268頁、社会思想社、2005年、2,220円 教科書に準ずる重要参考図書。善意の行為がかえって住民にとってマイナスになることがあるなど、開発援助の現場の経験から得られた非常に多くの経験・教訓をまとめた好著。</p> <p>2. 高橋和志・山形辰史(編著)『国際協力ってなんだろう』188年、岩波ジュニア選書、2010年、780円。内容は必ずしも「ジュニア」向きでなく、大学生にも好適な開発協力の包括的入門書。</p> <p>3. 佐藤寛(編)『援助研究入門:援助現象への学際的アプローチ』348頁、アジア経済研究所、1996年、1,400円。各分野の専門家による表題のとりの教科書。</p> <p>4. 佐藤寛・アジア経済研究所開発スクール(編)『テキスト 社会開発: 貧困削減への新たな道筋』261頁、日本評論社、2007年、2,200円。各分野の専門家によるかなり詳しい教科書。社会開発のあり方について詳細な知識を得たい時に参照したらよいと思います。</p> <p>5. 佐藤寛(編)『参加型開発の再検討』209頁、アジア経済研究所、2003年、2,500円。「参加型開発」について、各分野の専門家が経験・教訓を論じています。「参加型開発」について具体的な教訓・課題等を得たい時に参照したらよいと思います。</p> <p>6. 草野孝久(編)『村落開発と環境保全:住民の目線で考える』199頁、古今書院、2008年、2,800円。バングラデシュ、タンザニア、インドネシア、ケニア、マラウイ、ガラパゴス、サウジアラビア、フィリピン、タイ、カンボジア、ボルネオの具体例を集めたもの。</p> <p>7. 水野正己・佐藤寛(編)『開発と農村:農村開発論再考』278頁、アジア経済研究所、2008年、3,400円。日本の農村の戦後の生活改善等の事例を多用しつつ、途上国にも当てはまる理論を検討。(NGOによる協力)</p> <p>8. 日本国際ボランティアセンター(JVC)『NGOの時代 平和 共生 自立』357頁、めこん、2000年、2,220円。日本最大の援助NGOの様々な経験の紹介。</p> <p>9. 金・福武・多田・山田『国際協力NGOのフロンティア: 次世代の研究と実践のために』301頁、明石書店、2007年、2,600円。国際協力に関わるNGOの課題についての当事者による論考。</p> <p>10. 熊岡路矢『カンボジア最前線』258頁、岩波新書赤版280、1993年(絶版で、古本多数。)。カンボジアに最も早期に事務所を構えた日本のNGOから見たカンボジアの政治、社会の問題から自分たちの開発協力の経験まで。今日まで続く日本国際ボランティアセンターのカンボジアでの協力の様々な背景を理解する一助に。</p> <p>11. メアス・ニー『壊れた籠ーカンボジアの村の再生に賭ける』75頁、日本国際ボランティアセンター、1996年。カンボジア内戦を経験し、村の再生を志したカンボジア人の語り。上記を具体的にカンボジアの人の体験から理解するのに役立つ。 (カンボジアの農村の開発問題、ラオスの農村の開発問題)</p> <p>12. 矢倉研二郎『カンボジア農村の貧困と格差拡大』556頁、昭和堂、2008年、9,000円。稲作、畜産、非農業自営、出稼ぎ、危機への対処、インフォーマル信用市場、マイクロクレジット、資産配分、土地分配、子供の就学と、カンボジアの農村の開発課題を包括的かつ具体的に調べ、論じた博士論文を基にした研究報告。数値等のデータも豊富。</p> <p>13. 新井綾香『ラオス 豊かさと「貧しさ」のあいだー現場で考えた国際協力とNGOの意義』182頁、コモンズ、2010年、1,700円。前日本国際ボランティアセンター・ラオス・プロジェクト現地担当者による経験に基づくラオス農村開発の課題。現在のプロジェクト地とは異なる場所での経験であるが、現場の教訓は広く通じる。</p> <p>14. 東智美『ラオス焼畑民の暮らしと土地政策：「森」と「農地」は分けられるのか』66頁、風響社、2016年、800円。土地に関する住民の権利と焼畑についての最新研究報告。焼畑は森林減少の主たる原因の一つとの政府等の思い込みが改まって来たことも報告されている。</p> <p>15. 横山智・落合雪野『ラオス農山村地域研究』453頁、めこん、2008年、3,500円。上記でもカバーされている主要課題を研究者の視点で整理したもの。 (インドシナ戦争)</p> <p>16. 小倉貞男『ドキュメント ヴェトナム戦争全史』392頁、岩波現代文庫(社会110)、2005年、1,200円。1941年のベトミン結成から1978年以降のベトナムによるカンボジア侵攻や中国のベトナム侵攻まで、長く続いたベトナムとその周辺での戦争について詳細に記述。</p> <p>17. 清水知久『ベトナム戦争の時代 戦車の闇・花の光』225頁、有斐閣新書C139、1985年、800円。ベトナム戦争について、ベトナム国内の事情だけでなく、アメリカ国内の事情、日本国内の事情も含めて記述。</p> <p>18. 石川文洋『カラー版 ベトナム 戦争と平和』190頁、岩波新書赤版962、2005年、1,000円。ベトナム戦争について、当時撮影した写真、その後の写真と説明で紹介。帯の「あの苛烈な戦争の実相、この40年の人びとの表情」が内容を表している。</p> <p>19. 沢田サタ『新装版 泥まみれの死 沢田教一ベトナム写真集』242頁、講談社文庫、1999年、税込み700円。ベトナム戦争の取材中に命を落とした写真家沢田教一の母親が、ベトナム戦争の状況を記録した彼の写真を整理した写真集。</p> <p>20. 一ノ瀬泰造『地雷を踏んだらサヨウナラ』324頁、講談社文庫、1985年、715円。1973年にアンコールワット付近で消息を断ち、1982年になって両親によって死亡が確認された写真家一ノ瀬泰造の撮った写真とカンボジア従軍記等。アンコールワット近くの埋葬地は、今回訪問可能。</p> <p>21. 開高健『ベトナム戦記』300頁、朝日文庫、1990年、500円。ベトナム戦争取材の記録と写真。</p> <p>22. 本多勝一『戦場の村』334頁、朝日文庫、1981年、800円。ベトナム戦争下の人々の生活の取材記録。写真入り。</p> <p>23.ビデオ『NHKスペシャル 映像の世紀』「第9集 ベトナムの衝撃」、NHK、2005年(2016年1月22日に解像度が向上したそのデジタルリマスター版(2015年後半及び2016年元日に放送)をDVDとブルーレイで発売予定。副専攻「平和学」で購入した2005年の当初の版(DVD)は宮田が持っています。)</p>
参考文献 ／References	

	<p>解像度が向上したそのデジタルリマスター版(2015年後半及び2016年元日に放送)をDVDとブルーレイで発売予定。副専攻「平和学」で購入した2005年の当初の版(DVD)は宮田が持っています。)</p> <p>(ポル・ポト派のもたらした深刻な問題)</p> <p>24. 山田寛『ポル・ポト<革命>史―虐殺と破壊の四年間』242頁、講談社選書メチエ305、2004年、1,600円。カンボジアで徹底的に知識人等を虐殺し、今日のカンボジアに深い影を落としているポルポト派の発生、行ったこと、終焉。</p> <p>25. 小倉貞男『ポル・ポト派とは?』63頁、岩波ブックレット、1993年、絶版(ネット上の古本で1円から)。上記の簡略版。</p> <p>26. 緑風出版編集部(編)『カンボジアPKO[分析と資料]』、緑風出版、1992年</p> <p>27.三留理男『悲しきアンコール・ワット』224頁、集英社新書、2004年、700円。アンコール遺跡群の盗掘と密売の取材報告。</p> <p>(訪問国の歴史、社会、暮らし、経済等について大学教員の提供する知識を得る。)</p> <p>28. 上田広美・岡田知子『カンボジアを知るための62章』第2版、428頁、明石書店(エリア・スタディーズ)、2012年、2,000円。</p> <p>29. 菊池陽子・阿部健一・鈴木玲子『ラオスを知るための60章』368頁、明石書店(エリア・スタディーズ)、2010年、2,000円。</p> <p>30. 今井昭夫・岩井美佐紀『現代ベトナムを知るための60章』第2版、432頁、明石書店(エリア・スタディーズ)、2012年、2,000円。</p> <p>31. 今井昭夫他『東南アジアを知るための50章』460頁、明石書店(エリア・スタディーズ)、2014年、2,000円</p> <p>32. 石澤良昭、三輪悟『カンボジア 密林の五大遺跡』連合出版、270頁、2014年、2,500円。南シナ海岸からベンガル湾まで数千キロに及ぶ盛り土道路が雨季にも交通を可能にしたことなどを含め、現在のベトナム南部、ラオス全域、タイ全域にまたがるクメール帝国の繁栄の基礎となった政治・社会構造を学術的に解き明かすもの。</p> <p>(旅行ガイド)</p> <p>33. 旅行ガイドもあったほうがよいと思います。日本のものとしては、『地球の歩き方』のそれぞれの国のものが比較的詳しく、英語では、"Lonely Planet"が格段に詳しくかつ正確なことが多く、お勧めです。カンボジアの地図として、Gecko Maps "Cambodia Road Map 1:750,000"が、詳しく、かつ、英語、カンボジア語、日本語を含む数か国語で書かれているなど、お勧めです。</p> <p><推薦図書> 1. 齊藤文彦『国際開発論:ミレニアム開発目標による貧困削減』302頁、日本評論社、2005年、2,900円。開発について包括的に書かれた大学の良い教科書。</p> <p>2. 「動く→動かす」編『ミレニアム開発目標:世界から貧しさをなくす8つの方法』103 pp. 合同出版、2012年、620円。2015年までの達成を目標として国連等が採択した「ミレニアム開発目標」とその達成状況、課題についてのNGO「動く→動かす」による解説。</p> <p><参考ウェブサイト></p> <ul style="list-style-type: none">・カンボジア特別法廷: http://www.eccc.gov.kh/en・詳しく実用的なカンボジアの地図: http://www.canbypublications.com/maps/camroad.htm・日本の外務省のカンボジアのページ: http://www.mofa.go.jp/region/asia-paci/cambodia/index.html・フォト・ジャーナリストの阿佐部伸一さんによる「東南アジアの人々」ウェブサイト: http://www.hh.ij4u.or.jp/~asabe/index.shtml 取材の記録を基に歴史的経緯や人々の生活を紹介しています。・日本国際ボランティアセンターのウェブサイト: http://www.ngo-jvc.net/・ベトナム、ラオス、タイの1人旅向けのかかなり詳しく具体的な情報: http://mekong.main.jp/ <p>(上記書籍価格は、2017年12月時点の本体価格です。)</p>
キーワード ／Keywords	開発途上国、開発、発展、環境、カンボジア、ラオス、ベトナム、東南アジア、農村開発、NGO、青年海外協力隊、上智大学アジア人材養成研究センター、協力、ポルポト、カンボジア特別法廷
備考 ／Remarks	(平成13年度以前に入学した学生が履修した場合は教養科目の総合科目群で社会科学系となります。) 課題別副専攻「平和学」科目としても指定されています。 開発論に基礎を置く文系科目です。しかし、開発論自体、理工系、農学系や医学系を含むmutlidisciplinaryな科学です。そのため、文系、理工系、農学系、医学系を問わず得るものの多い科目と考えています。

● 授業計画詳細情報

内容 ／Content	準備学習 ／Preparing learning	備考 ／Notes
成績がつくのは後期の授業と同じ時期ですが、授業の大半は前期に行います。 (1)授業についての説明(5月) (2)学生との個別面談による受講生の選択 (3)訪問予定国の環境問題と開発の諸課題についての事前の日本国内調査・準備(5月から7月にかけて4コマ程度の授業及び受講生の分担による文献・資料・インターネット等による調査。また、各自、現地の言葉での基本的な表現の練習) (4)現地の問題の現場、政府機関、国際機関及び民間団体等を訪問して、実情を調査(9月に、カンボジア、ラオス、ベトナムを訪問することを検討しています。) (5)現地調査の結果の分析等の議論(10月の2コマ程度の授業) (6)現地調査報告書の作成及び提出(11月中)	1. 開発途上国の環境と開発の問題または環境問題もしくは開発問題について基礎知識または経験のあることが履修の条件になっています。そのため、授業では、そのような基礎知識の提供はしません。しかし、そのような基礎知識が現地訪問の基礎になるので、そのような基礎知識について、予め自分で復習しておいて下さい。 2. 事前勉強会では、訪問予定国の環境問題と開発の諸課題についての確認しますが、詳細には論じません。配布する資料を各自で読んでおいて下さい。 3. 事前勉強会で最も重点を置いて行うのは、危険についての勉強です。事前に資料をよく読んでおくとともに、事前勉強会では、疑問等が少しでもあれば質問等して、現地での危険に備えて下さい。また、出発までには、チャーター機で治療態勢の整った国外若しくは日本への搬送、家族の駆けつけ等に備えて十分な内容の旅行保険に入ってください(いったん発生すると大きな額が必要になる事態は、発生頻度が低いので、掛け金は少額で済みます。)。クレジットカードに付帯している保険の内容は十分でないので、必ず、別途旅行保険をかけて下さい。加えて、外務省の「旅レジ」に登録して、訪問先国の安全情報が配信されるようにして下さい。 4. 1か月以内の滞在の場合、必要とされる予防接種はありませんが、日本にもある破傷風は、気をつけていても感染するリスクがあり、また、日本でも役立つので、接種を検討してよいかと思います。しかも、比較的安く接種できます。但し、効果が10年あるので、子供の頃に破傷風が含まれる3種混合ワクチンを受けた人にはまだ効果が残っている可能性もあります。この機会に再接種すると更に10年効果が延びることになります。 狂犬病については、致死率が非常に高い上に極めてむごい亡くなり方をするので接種の価値が高いですが、日本に無い病気なので、接種には数万円かかり、かつ、数回の接種が必要なので、かなり早くから計画的に行う必要があります。接種しない場合、動物には近づかないことにより予防に努めることが重要です。 デング熱、ジカ熱等蚊が媒介する病気が多く、予防接種も無く、治療薬も無いので、蚊よけ対策をしっかりして下さい。 ラオスの田舎にはマラリアも多少あるので、蚊よけは、マラリア対策の上でも重要です。 5. 現地の人に挨拶できることは重要です。各自、現地の言葉での基本的な表現の練習をしておいて下さい。	